



とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名

ケーエムピー

所在地

鳥取県鳥取市叶 428 番地 15

代表者

代表 片山 優悟

業種

製造業

事業概要

主に LED 照明の製造、販売を行っていて、既製品にはない LED 照明を客先の要望により製作し販売しています。
2019 年に開業したばかりですが、水銀灯に代わる LED 街路灯の納入や独自の植物育成用 LED 照明(教材向け)、水槽用 LED 照明なども受注販売しています。
またソーラーパネルを使用した街路灯や折り畳み式ソーラーと蓄電池をセットにした防災キットの取扱いも開始し、BCP 対策製品の普及活動にも力を入れています。

<2030 年に目指す姿>

当社が取り扱っている製品は LED 照明であるが、照明は生活に無くてはならない物であり、仕事、生活、植物、イルミネーションなど照明の種類は多岐にわたっている。
その中において、LED 照明の特長でもある省電力、長寿命な特性を生かし、これまでの照明にはない使い方を個々に提案し、
照明への不満や悩み、疑問を聞き出し、実際の状態を自分の目で確認し問題点を指摘、改善策を提案できる、そんな事業の展開を目指している。
具体的には、植物育成照明や水槽用照明の製作で培ったノウハウを生かし、循環型農法であるアควAPONIX(魚の飼育と植物の育成を同時に行う水耕栽培システム)をもっと身近に感じてもらえる製品を提供することで、生産性と環境配慮の両立=持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えている。
また継続して自社で取り扱っている、ソーラー街路灯や折り畳み式のソーラーと蓄電池をセットにした防災キットの普及活動を積極的に行い、地域や企業における BCP 対策にも貢献していきたいと考えている。

<目指す姿の実現に向けた重点的な取組>

経済6：コロナなど市場変化を見据えた対応

環境9：環境配慮型商品・サービスの提供

<重点的な取組推進時のインパクト（正の影響、負の影響）の分析・考察>

・コロナなど市場変化を見据えた対応の取組として、アクアポニックスやソーラー充電式街路灯など省電力、長寿命のLEDを使用した製品を製作、提案しているが、いくら長寿命とは言えいつかは点灯しなくなり、結果電子部品の廃棄物が発生してしまう。

電子部品については、今の技術では安全上の理由もあり再利用できないものがほとんどだが、筐体については、再利用できるものもあり、製作時に筐体が再利用できる設計にするなど工夫してなるべく廃棄物が生じないようにするなど努力している。

・環境配慮型商品・サービスの提供への取組として、電源を喪失しても点灯する照明で夜間の災害発生時でも安全に避難ができる街路灯や避難所の安全確保のための照明の普及活動を行っているが、これらの照明について、光害や景観との調和など設置する場所によって明るさや規模などを考慮する必要があるため、照明コンサルタントの資格を取得して専門的な知識を身につけることで、上方光束(水平方向よりも上方に向かう光)を抑えた照明を採用するなど周囲の景観に合わせ十分にシミュレーションをした上で提案することなどを行っている。

負の影響として、世界的に問題となっている電子部品の供給不足と価格急騰について、LED照明の部品についても例外ではなく、今後もその影響が懸念される。これに対応するため仕入れ先との情報共有、コスト増になった部分をいかに最低限に抑えるか(例えば共通部品を増やす、混載便を利用し輸送費を削減する。など)様々な工夫で乗り越えて行きたい。

また電子部品の供給不足による納期遅延も発生しており、今後も影響が懸念される。

客先への提案時に、納期日程についても事前に十分に協議しトラブルのないように取り組んで行きたい。

社会(1/2) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
労働災害の防止	<p>【主な取組】 治具や設備についての管理規程を設け、保全管理業務の着実な実施及び運営を行い常に良好な状態を保ち、製品品質の安定と作業性の向上、作業の安全に努めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 設備、治具等が原因による品質問題、労働災害発生件数ゼロ(R4～R6年)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 新たな設備、治具導入時には作業マニュアルの作成、事故防止に努める。</p>
ハラスメントの防止	<p>【主な取組】 厚生労働省作成のカスタマーハラスメント対策企業マニュアルに基づき、カスタマーハラスメント対策の自主的な取組を行い、HPに電話での打ち合わせ時に通話を録音することがあることを明記するなどカスタマーハラスメントの防止に取り組んでいる。</p> <p>社内ハラスメントの内容分析 (どの様な事例が問題となるのか?) 今後、従業員を雇用することになった場合に備えての、対策事例の収集、分析。 自社から取引先視点でのハラスメントの内容分析、対応事例の収集、分析。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 ハラスメント発生ゼロ件(R4～R6年)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 被害者にも加害者にもならない。ハラスメント防止を恒常的な取組とする。 正しい知識を身に着けハラスメントリスクに対するアンテナを張る取り組みを継続する。</p>
多様な働き方の促進	<p>【主な取組】 自社については、時間にとらわれない柔軟な働きかたを(フレックスタイム制)実施している。</p> <p>また間接的な取組となるが、水槽に付着するコケの発生を抑制するLED照明を製作、提案することでメンテナンス時間の短縮に貢献し、間接的に労働時間の短縮に寄与する取組を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 今後従業員を雇用することになった場合本人が希望すればフレックスタイム制に柔軟に対応する。また有給休暇についても、時間単位取得を採用するなどしていく。(2030年に向けて)</p> <p>メンテナンス時間の短縮、危険防止に貢献する照明の提供(R4～R6年3件以上)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 客先からヒヤリングを行い、使う人の立場に立った商品開発、商品提案を進め、間接的に労働時間の短縮等に貢献していく。</p>
労働者への人権配慮	<p>【主な取組】 サプライチェーンの一員として大手企業の部品加工、検査も担っているが取引先企業からのサプライチェーン企業行動ガイドラインを遵守し、サプライヤーとして理解協力をしている。</p> <p>人権尊重責任の取組として消費者の安全と知る権利=リスク防止、軽減への取組 公共性の高い街路灯の設置時など(特に灯数の多い場合)事前に資料を作成し地元住民の方への説明を行い、地元住民の方の声を聴き納得して頂いた上で製品の提供を進め行く取組を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 自社としての人権方針を作成し公開する。(R6年まで) 消費者への説明マニュアルの作成(R6年まで)</p> <p>自社のサプライヤー(部品仕入れ先)に対する、企業行動規範についての確認。 自社の取組についての理解と協力をお願い。(R6年まで)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 サプライヤーとしての日々の活動がガイドラインを遵守したものとなっているか常日頃から確認し、必要であれば企業からの情報開示要求に協力する。 消費者の心身の健康を害するような製品、サービスの提供をしない製品作り。(景観に配慮した製品作り。)事前の商品説明など消費者の立場に立って丁寧に説明していく。</p> <p>自社のサプライヤー(部品仕入れ先)に対する、企業行動規範(CSR)について確認し、自社の取組について理解と協力をお願いをしていく。</p>

社会(2/2) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
社会配慮型 商品・サービスの提供	【主な取組】 商品、サービスの開発、提供における利用者の安全性への配慮として、通学路や町の安全確保の為に照明の普及活動を行っており、施工コストを抑えた小型簡易取り付け式のソーラー照明灯で平常時はもちろん災害時や停電時でも光を絶やさない安心安全な町づくりを後押ししている。	【今後の目標・達成時期】 社会配慮型商品のラインナップの充実 (年間最低2製品を目標) (R6年までの3年間集中して行う。) 【目標達成に向けた取組】 消費者の心身の健康を害するような製品、サービスの提供をしない製品作り。(光害、景観に配慮した製品作り。) 自社HP等で積極的な事例紹介等をPR、情報発信。 安全確保の為に照明の積極的な営業活動。
地産地消	【主な取組】 地元業者との積極的、優先的取引 照明を設置する際、設置工事、電気工事が必要となるが、地元業者へ発注することで地産地消を行うようにしている。 また納入先へも地元業者が製作し、地元工事が業者が工事を行うことを積極的にアピールし、地産地消への理解をお願いしている。	【今後の目標・達成時期】 鳥取生まれの木材(鳥取県産材)を使用した製品の開発(R5年度内) 【目標達成に向けた取組】 自社で製作予定のアクアポニックス装置について、栽培棚や水槽台に鳥取県産材の使用を検討している。
地域社会への貢献	【主な取組】 教材向けに製作した植物育成用LED照明装置の製作、提供。 植物育成用のLED照明を使用することで、十分に太陽光が届かない室内でも植物が育つことの理解を深めてもらった。(中学校の授業で使用)	【今後の目標・達成時期】 LED照明、水耕栽培に関連した製品の製作 (R4年度内試作、R5年度量産) 防犯灯等の寄贈活動(今後10年以内を目標) 【目標達成に向けた取組】 循環型農法(アクアポニックス)装置の製作 関係機関にも協力を頂き生涯学習の機会を促進する活動を行う。 安心安全な町づくりを後押しする製品の提供

経済(1/2) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
事業継続計画(BCP)の策定	<p>【主な取組】</p> <p>BCP(事業継続計画)の策定 また災害発生時に速やかに取引先等に自社状況が連絡できるよう、被災状況報告書を作成している。 また折り畳みソーラーパネル、モバイルバッテリー、充電式 LED 照明を常備し、非常時にいつでも持ち出せるようにしている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>事業継続力強化計画の策定(R6 年まで継続的に) 現在は必要最低限の項目の策定しか行っていないためさらにブラッシュアップしていく。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>事業継続力強化計画を策定する。 個人で事業を営んでいる為、何よりも柔軟であるという反面、個人の身に何かあればすべてが停止し納期遅れなど関係者を含め様々なステークホルダーに多大な影響を与えてしまうことが懸念される。自らの事業をしっかりと継続することが非常に重要であり、事業継続力強化計画の策定によって改めて事業継続力を認識する。</p>
法令順守の取組の徹底	<p>【主な取組】</p> <p>自社事業に関わる法令の把握 (現時点で行っている自社業務について) LED 照明の設置工事について、すでに取得している第二種電気工事士が行うことができる範囲を把握していて、それ以外の工事は外注に依頼している。</p> <p>また製造物責任法(PL 法)について、自社の責任範囲について調べ理解している。 PL 保険については、まだ未加入であるため見積もりも含め加入についての準備を進めている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>新たな事業活動に関連する重要法令の調査。 抵触した場合の影響分析、把握。 (R5 年度内)</p> <p>PL 保険の加入(R4 年中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>今後の新たな事業活動に関連する重要な法令ないか事前に把握し、遵守する仕組みを構築する。 新製品の開発、製作について遵守すべき法令等はないか、十分調査した上で、進めて行く。 (例えば、アクアポニックスで栽培した野菜などを実際に食べたり、販売したりすることになった場合に食品衛生上注意、遵守すべきことはなにか。 またどこ(誰)が責任者となるのか?など)</p> <p>PL 保険加入の準備(見積含む)</p>
情報公開	<p>【主な取組】</p> <p>自社 HP で事業活動の積極的公開を行っている。 情報開示の問い合わせに対する対応方針の策定のための事前調査、所定書式の準備作業など。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>個人情報保護のルール化(R6 年度内) 自社 HP に法令順守のメッセージを UP する。 (R4 年度内)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>改正個人情報保護法の全面的施行によりたとえ 1 件でも顧客情報を持っている場合は法の義務を負うことになった。個人情報保護法 5 つの基本ルールを参考に自社のルールを策定する。</p>

経済(2/2) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
コロナなどの市場変化を見据えた対応	<p>【主な取組】 これまではライトアップ照明の営業活動も行ってきたが、コロナの影響で密になることを避けるという意味においてライトアップの自粛が相次いだ。ライトアップ照明の営業活動から持続可能な社会の実現に貢献する製品へのシフトを行っている。(ソーラー街路灯、アクアポニックス装置など)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 持続可能な社会の実現に貢献する製品(ソーラー街路灯、アクアポニックス装置)の普及活動、開発(R6年まで集中的に)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 継続的な情報収集、価値観の変化がもたらす自社事業への影響の把握、分析。 自社HPやユーチューブにこれらの製品について紹介する。また日々の営業活動においてもカタログ等を用いPRしていく。 新聞広告等のメディアも活用し、多くの人にPRしていく。</p>
自社以外の経営資源活用	<p>【主な取組】 技術、ノウハウに関する他社との連携 自社の得意分野、LED照明、ソーラーパネルと異業種他社とのコラボ製品企画への積極的取組。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 現在進行中のコラボ製品企画案件の推進と製品化(R5年)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ビジネスマッチング等の外部ツールの積極的利用。</p>
デジタル化による生産性向上	<p>【主な取組】 照明提案に際し、現地確認の前にオンラインで状況を確認(Googleストリートビューの活用)。 取引先との打ち合わせ、会議にZoomを使用。 顧客が希望した場合、オンラインでも対応できるように環境を整備している。</p> <p>またアクアポニックス装置の将来的な付帯機能として、IOTを用いた温度管理、水質管理機能を持たせることを目指している。 (センサーを用い、温度、水質を測定し、異常があればスマートフォンに通知するなど。) その第一ステップとして、Arduino(マイコンプログラム)を使い自社でスケッチ(プログラムのコード)を作成、装置内の温度を自動で読み取り、周囲温度に応じて空冷ファンや温風ファンを自動で動作させる装置を製作し、ユーチューブに紹介動画を公開している。(ごんカンパニーLabで検索願います。)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 新たな価値や顧客創出に向けたデータ活用(今後5年後までに)</p> <p>アクアポニックス装置のIOT化(R7年度までに) 自社製品の紹介動画公開(R7年に向けて継続)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 様々なデータを活用し、新たな製品作りのヒントがないか分析していく。</p> <p>アクアポニックス装置にIOTを用いた機能を持たせることで、他社製品との差別化を図り、生産性向上と異常の検知を目指す。 自社製品について動画で紹介することで紙ベースのカタログよりもより分かり易く伝え、また多くの人にLED照明や電子工作について知ってもらう機会を創出する。結果自社製品の受注につなげる。</p>
人材育成・能力開発	<p>【主な取組】 自社の業務に必要なスキルの取得、外部研修への参加</p> <p>取得済スキル: 照明コンサルタント、第二種電気工事士、水耕栽培士、水耕栽培インストラクター</p> <p>ライティングセミナー(照明手法セミナー) テクノロジーセミナー(電子部品活用セミナー)への参加</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 スキル取得、外部研修(セミナー)への積極的参加の継続(R6年まで集中的に)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 自社の業務に必要なスキルの情報収集、分析、スキル取得、研修への参加</p>

環境(1/3) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
気候変動リスク／環境負荷リスク・機会の分析・対策		
自然環境の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】 防災照明としてのソーラー照明灯について、これまで電源部が低い位置にあり、想定外の浸水により電源部に水が入り使用不能になる懸念が出てきた。</p> <p>急性の災害リスクに対する仕入れ先の被災による自社の事業への影響</p> <p>【分析に基づく主な取組】 ポール上部でシステムが完結するソーラー照明灯をラインナップに加え客先へ提案している。</p> <p>自社の今後の主力製品の1つを担うであろうソーラー照明灯について仕入れ先を1社から2社へ増やす取組を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 地域のハザードマップの分析 (今後5年間に向け随時)</p> <p>自然環境の変化が経営にもたらす顧客への影響の分析(今後5年間)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 照明灯電源部の浸水が想定させる地域に向け水害対策ソーラー灯の普及活動を行う。</p> <p>分析を踏まえ影響を最小限に抑えるための取組の構築</p>
社会・制度の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】 カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネ、CO2 排出削減に貢献する製品、取組はできないか？</p> <p>【分析に基づく主な取組】 環境省の脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業への参加取組。 具体的内容:屋外照明のスマートライティング化(遠隔からの調光制御)製品の取扱い。 メリット:これまでは自動点滅器による個別のON/OFF 制御(劣化、故障、設置環境による照度検出再異があり再調整や修理が必要。屋外照明の不具合原因の中で一番多い。スマートライティングにすることで、遠隔からの監視制御、同時刻一括制御が可能になる。故障時の1次対応も現地へ行かず可能になり、交換作業が必要な場合のみの2次対応となる。(事前に交換対象の把握ができ、適切な是正処置が可能)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 屋外照明のスマートライティング化製品の販売(R6年)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 屋外照明のスマートライティング化製品の営業活動。 販売、物流、その後のメンテナンスについて、あらゆる側面からカーボンニュートラルの実現に向けて貢献できる製品の検討、仕入れ先メーカーへのアイデア提案、自社製品への応用。</p>
自社の事業活動が引き起こす影響	<p>【リスク・機会の分析】 現状照明ポールの輸送時、チャータートラックを使用した輸送を行っており、物流時のCO2 排出削減に貢献できていない。</p> <p>【分析に基づく主な取組】 自社が取扱い、最近ラインナップされた一般の混載便で輸送可能な分割式照明柱、ソーラー灯の客先への提案を優先して行い、環境負荷への削減の取組を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 仕入れメーカーへ環境負荷に貢献する製品開発に向けての要望やアイデア、具体的提案。 (今後5年間)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 販売、物流、その後のメンテナンスについて、あらゆる側面から環境負荷削減について検討、アイデア提案。 (例えば、一般の混載便で輸送可能な製品ラインナップの拡充。 メンテナンスの削減に貢献する製品。(故障時に遠隔で状況が確認できるシステム。 故障時の初期対応が現地に行かなくても可能になり、人的コスト、現地確認移動時のCO2 削減に貢献できる。)</p>

環境(2/3) : ケーエムピー

	取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
カーボンニュートラル			
	<p><省エネ> 燃料消費量の削減</p>	<p><KPI> CO2 排出量 0.4t-CO2/年 (R3 年時点) (自社排出量のみ)</p> <p>【主な取組】 自社内ではオール電化を採用し、企業活動において燃料を使用しない取組を行っている。営業時の移動に車を使用しているが、照明提案に際し、事前調査も含め本来であれば最低2回以上客先へ足を運ぶ必要があるが現地確認の前にオンラインで状況を確認(Google ストリートビューの活用)することで事前調査の回数を減らし、結果燃料消費の削減を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> CO2 排出量 0.3t-CO2/年 (R9 年時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 自社内については、今後も継続して燃料使用を行わないようにしていくほか、次回営業車を更新(購入)する際は、EV もしくは、ハイブリッド車を採用する。 また企業が省エネ設備へ更新する際に、LED 照明への更新とセットで使用できる補助金などもあるので、その情報を営業活動の中で案内し、企業の省エネ対策を後押ししていく。</p>
	<p><省エネ> 電力消費量の削減</p>	<p><KPI> CO2 排出量 1t-CO2/年 (R3 年時点)</p> <p>【主な取組】 自社の照明を順次 LED へ取替している。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> CO2 排出量 0.8t-CO2/年 (R6 時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 自社敷地内のソーラー照明灯の導入(R5 年度内)</p> <p>また脱炭素社会の実現に向け、クリーンエネルギーであるソーラー照明灯等の企業への営業活動を通して間接的に企業の電力消費量削減に貢献していく。</p>

環境(2/2) : ケーエムピー

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
廃棄物の削減	<p><KPI> 総廃棄物発生量 1.6t/年 (R3 年時点) (自社発生分のみ)</p> <p>【主な取組】 一部を再利用できる製品の提案、開発 エコリメイク(既設灯具再利用)(LED 照明へ改造)の提案</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 総廃棄物発生量 1.5t/年 (R6 年時点)</p> <p>筐体再利用可能な製品を増やす</p> <p>【目標達成に向けた取組】 自社製品について製作時に筐体が再利用できるように設計時から考慮して部品選定、製作を行う。</p>
水資源の適正な管理	<p>【主な取組】 水資源量の把握、削減目標設定。 水資源量:240 m³/年 削減目標:5%減(年間) (水資源量値は家庭使用量も含む。自社が兼自宅のため)</p> <p>アクアポニックス装置の市場調査、設計、試作 (自社内設置用の装置製作準備) 水槽用 LED 照明の評価、データ取りの為、自社に水槽を設置し魚を飼育しているが、水の補充、入替を定期的に行っている。 この水槽もアクアポニックスにすることを目指し準備を進めている。</p> <p>アクアポニックス生産、販売に向けた、取引先への提案の実施。 具体的には、とっとり賀露かっこ館への企画提案、取引銀行へビジネスマッチングに向けた支援の依頼など。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 水質資源削減目標:5%減(年間) (R8 年までに) 自社内にアクアポニックス装置設置(R4 年度内) アクアポニックス装置の製作(R5 年度量産) 自社に雨水タンクを導入(R6 年度内)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 自社内にアクアポニックス装置を設置し、継続して植物と魚を育て、水資源を循環させる。 肥料や水の入れ替えがほとんどない循環型農法であるアクアポニックスを通じて、自然環境を一切汚すことのない環境負荷が低い水資源の有効利用の方法を身近に感じてもらう機会を創出する。</p> <p>自社に雨水タンクを導入し、雨水を散水に活用し、水資源量の削減を進める。</p>
環境配慮型商品・サービスの提供	<p>【主な取組】 商品、サービスを開発、提供における利用者の安全性への配慮 環境省の光害対策ガイドラインに則った照明の提案。 街路灯の事例として、これまで上方向に光が向いている照明を提案していたが照明対象の路面のみを照らす照明を提案し採用してもらうことで、適切な照明手法の重要性の促進を図っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 光害対策ガイドラインに則った照明の提案 (2030 年に向けて継続)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 現地確認等により周囲の環境も把握し、周囲の環境に寄り添った照明を提案する。</p>